

「救い主がお生まれになった」
ルカの福音書 2章 8節～20節

はじめに

今朝の礼拝は、降誕節第三主日の礼拝です。イエス様がベツレヘムの馬小屋でお生まれになったとき、近くの野では、羊飼いたちが羊の番をしていました。その羊飼いに神様からのメッセージが語られました。そのメッセージとは、「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです」というものでした。そして、彼らが間違いなくその方を見つけられるように、「あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです」と付け加えられました。

この出来事は、私たちに何を告げ、何を教えているのでしょうか。

1 救い主の必要。

「救い主がお生まれになりました」と告げられましたが、なぜ救い主が必要だったのでしょうか。それは彼らにだけ必要だったのでしょうか。それとも私たちにも必要なのでしょうか。

(1) 私たちはみな罪を犯している。

救い主が必要なのは、私たちがみな罪を犯しているからです。罪が人を不幸にし、墮落させ、ついには永遠の滅びに陥れるのです。しかし、私たちは自分が罪を犯していることを自覚していません。

例話：私たちには子どもが4人います。子どもたちがまだ小さい時のことです。千葉で、日本同盟基督教団市原平安教会の牧師夫人になっている真樹子は、とてもおしゃまな子でした。現在東京足立区の希望キリスト教会の牧師をしているすぐ上の兄の克哉や、菊名西教会の中後雅弘長老とは5歳も年が下なのに「かっちゃん！まーちゃん！」と、仕切っていました。

あるとき、数枝が「いとこの直子ちゃんが病気だというので、おばあちゃんが飛んでったのよ」と言いました。それを聞いた真樹子が「おばあちゃん、すごいね。飛べるんだ」と言いました。

この真樹子がある日の食前のお祈りで、こう訴えたのです。「お父様、お兄ちゃんはずるいんだよ。お祈りをしているとき、目を開けて、きょろきょろ見ているんだよ」。「でも、真樹ちゃん、どうしてお兄ちゃんが目をあけているのがわかったの」。

私たちは、自分のことには気づかないものです。妻があるときおもしろい本を

見つけて来ました。三重県津東高校の吉村英夫という人が書いた「父よ、母よ」という本です。「父よ、言いたいことがあったら、はっきり言え。母よ、言いたいことをそのまま言うなよ」「母よ、お弁当毎日ありがとう。冷たいけれど暖かい」。そんな中で痛烈なのをもう一つ。「お父さんとお母さんの話を聞くと、これが親かと思う。もっと勉強しろ、と私が言いたい」。

私たちは、自分のことは気づきにくいものです。自分が神の前に罪を犯していて、それが自分を苦しめる一番の問題だと分からないのです。

(2) 私たちは、罪を重視しない。

今年も地震、水害、酷暑などによって大きな被害がありました。

でも、災の中で一番恐ろしいのは、神様からの災です。人間は、神様との絆を断ちきり、自分中心の生活をするようになり、その結果、罪に苦しむことになりました。罪は、人の心にあり、人の心から出てくる問題です。イエス様は、こう言われました。「人の心から、出てくるものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、どん欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです」。

とところが私たちは、この心の問題を重視していません。心よりも頭や外見が重視されています。心のやさしい子に育てるよりも、頭の良い子、可愛い子に育てようとしています。しかし、家庭を崩壊し、国を滅ばして来たのは、いつも人間の心、そして罪だったのではないのでしょうか。

聖書は、人々の問題の中心は罪だと教えています。イエス様がお生まれになる時、御使いはヨセフに「その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民を罪から救ってくださる方です」と告げました。

エレミヤという預言者は「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれがそれを知ることができよう」と言いました（エレミヤ 17:9）。

使徒パウロは「私は、私のうちには善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいとい願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです」と言いました（ローマ 7:18）。

人間は、神の前に罪人である。この大きな真理を無視して、人間の幸福を考えることはナンセンスです。

(3) 罪の結果。

① 「悪しき者には、平安がない」と聖書は教えています（イザヤ 48:22）。悪いことをすれば、自動的に心から平安が失われます。

② 罪は、必ず分かってしまう。私たちは、罪を隠そうとしますが、罪は何時までも私たちを追いかけて来ます。

例話：ある時電車に不正乗車をした人が捕まりました。2万円を浮かそうとして、28万円の罰金を取られました。不正乗車の161回目に、コートの間違えて、電車を降りました。コートを間違えられた人が駅に届け出て、その人の悪事が分かってしまったのです。

③ 最後の審判があります。ローマのシスティナ礼拝堂のミケランジェロの最後の審判が修復され、今その当時の色を再び見ることができます。が、大切なのは、その絵を見て感動することではありません。何時の日かすべての人が神の前に出て、神から審判を受けるという事実です。

結論：私たちは、神の前に罪を犯しているのです。罪が私たちを不幸にし、滅ぼします。では、私たちは救われないのでしょうか。私たちを救う救い主がお生まれになったのです。

2 救い主はだれか。

では、だれがこの罪から私たちを救ってくださるのでしょうか。

(1) 旧約聖書の預言。

私たちの信仰の拠り所である聖書は、旧約聖書と新約聖書に分かれています。旧約聖書はイエス・キリストがお出でになる前にすでに完成されていました。その旧約聖書が救い主がおいでになることを預言しているのです。救い主は、処女から、ベツレヘムで生まれ、人々につくし、最後は人々のために死ぬことも預言されていました。

(2) 御使いの宣言。

そして、ヨセフに、「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です」と。マリヤには、「あなたはみごもって男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、そのはす」と宣言されたのです。

(3) イエス様のご生涯。

① イエス様のことば。

「わたしが来たのは、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであ

り、また多くの人のための 贖いとして、自分のいのちを与えるためなのです」(。

② 十字架の死

イエス様は、十字架に磔になって死にました。それは、罪のない神の御子が人間の罪を負って死んだのだと聖書は語っています。

③ キリストは、死んで三日目に復活し、40日弟子たちと過ごした後、天にお帰りになり、永遠の救い主として、いまご自身によって神のもとに来るすべての人を救ってくださるのです。

例話：日本がハワイの真珠湾攻撃をしたことで、アメリカとの戦争が始まりました。

今から77年まえの1941年のことです。その真珠湾攻撃の攻撃隊長だったのが、湊田美津雄さんでした。彼は戦争が終わってから、クリスチャンになり、牧師にもなりました。そしてある時、アメリカに行きました。そしてプレマートンという町の集会であかしをしたときのです。

話を終わって席に着こうとすると、一人の婦人が12歳ほどの男の子を連れて来て、「キャプテン、この男の子に握手してください」と言いました。そして、婦人は握手を求めた理由を話し出しました。

あの爆撃の日、この婦人はホノルルに住んでいましたが、丁度お産の日だったので前日から病院に入院していました。夫は海軍大尉で戦艦アリゾナの砲台長でした。

夫は病院で子どもの出産を待っていましたが、そのうち空襲警報のサイレンが鳴りました。訓練ではなく、日本軍の空襲だというので、夫はすぐ船に帰りました。そして重爆弾がアリゾナに命中し、沈没したのです。

「その時以来、夫は地上から姿を消してしまいました。その時の大音響は病院の窓ガラスを振るわしました。そしてその瞬間、この子が生まれたのです。あの音響を境に、父は死に、子は生まれました。その子は父を知りません。当時はどんなにか悲しくて日本の爆撃隊を呪いました。でも、死んだ夫は立派なクリスチャンでした。あの時の爆撃隊長がクリスチャンになって、この国を訪れてくれたことを夫はどんなにか喜んでいることでしょう。私もこの子も心からあなたを歓迎します。どうぞ主イエス・キリストにあって、この子と握手してあげてください」。聴衆はしーとして涙をのみました。

湊田さんもことばはなくて、子どもの手を握りました。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは自分のしていることが分からないのです」というイエス様のことばを、湊田さんはひたすら思いながら。

イエス様を信じるなら、人は救われ、変えられ、人を赦すことが出来るようになるのです。

3 どうしたら救い主にお会いできるのか。

(1) 行って見てこよう (15)

羊飼いは、見に行きました。そして救い主にお会いできたのです。私たちも「お会いに行こう」とすることが大切です。

(2) イエス様は、あなたを招いておいでになります。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」

(3) 信仰によって。

イエス様を肉眼では見ることはできません。それを見るのは信仰の目なのです。イエス様がこの世におられた時も、イエス様が神の子であり、救い主だと分かったのは、肉眼ではありません。多くの方は、見ても分からなかったのです。信じた人、信仰の目を見た人だけが分かったのです。ですから、昔も今も条件は同じです。信じる者だけが救い主にお会いできるのです。

私たちは何を求められているのでしょうか。

- 1 イエス・キリストを救い主として信じ、受け入れること。
- 2 聖霊に信頼し、聖霊に満たされて、主にことばのままに歩むこと。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」